

図書館だより



No.31

2025（令和7年）10月3日

石岡商業高校 図書委員会

猛暑の夏もやっと落ち着き爽やかな涼風に秋の気配を感じます。散歩していると生垣に赤い果実が目に残りました。「ピラカンサ」です。暑さで気をなくしていた庭がぱっと明るくなったように感じました。花言葉は美しさはあなたの魅力。見た目を装うことより、心の美しさを育ててみませんか。十代の皆さんの栄養源となる本があなたを待っています。

「読書週間」について
戦後まもない1947年（昭和22年）、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、公共図書館、出版社、販売会社、書店が力を合わせてはじめたのが「読書週間」です。

2025年・第79回「読書週間」(10月27日～11月9日)
標語「こころとあたまの、深呼吸。」

お勧め本



ヘタレ人類学者、沙漠をゆく（小西公大）
じっとしてられない（多動）。忘れ物や無くし物が絶えない（不注意）。人の繊細な気持ちを汲み取れず、良かれと思って言ったことが舌禍を招く（無神経）。大事な局面ほど失態をやらかすことが多い（計画性の不在）。著者の自由さに感動。



シン読解力（新井紀子）
ここで言う「読解力」とは、国語や読書の際に用いられる一般的にイメージされる読解力ではなく、「教科書を正確に読み解く力」を指す。そこで著者はこれを「シン読解力」と名づけた。シン読解力と学力には強い相関がある。



正しく疑う（池上 彰）
悪ふざけ投稿、誹謗中傷、炎上…。いまや誰もが発信者、気を付けないと自分が加害者になることもあります。また、フェイクニュースやデマも多く情報の受け取り方にもコツが必要です。情報との向き合い方、発し方をわかりやすく解説。ダメされない。炎上しない。傷つけない。被害者にも加害者にもならずこの時代を生き抜くための本。



新着本案内 図書館入口より正面書架に新着図書コーナーがあります

刀と傘	伊吹 亜門
焰と雪—京都探偵物語	伊吹 亜門
月とアマリリス	町田 そのこ
あなたの言葉を	辻村 深月
どうしたらいいかわからない時代に僕が中高生に言いたいこと	内田樹
猫の刻参り—三島屋変調百物語拾之続	宮部 みゆき
酒を主食とする人々－エチオピアの科学的秘境を旅する	高野秀行
家族のそよ風	松橋 秀皓
シン読解力	新井紀子
さみしい夜のページをめくれ	古賀史健
マイナス×マイナスはなぜプラスになるのか	鈴木貴太郎
ぼくが生きるということは、きみが死ぬということ	越尾 圭
氏家京太郎、奔る	中山七里
歌舞伎町ウラバイ	染井為人
土と生命の46億年史	藤井一至
午前零時の評議室	衣刀信吾
泡の子	樋口六華
世界99 上・下	村田沙耶香
僕の悲しみに君は跳んでくれ	岡本 雄矢

正しく疑う	池上彰	裁判官の正体	井上薫
くますけと一緒に （新装版）	新井 素子	本当の自由を手に入れる お金の大学	両@リベ大学長
墳墓記	高村 薫	みにくいふたり	芦花公園
ミアキス・シンフォニー	加藤シゲアキ	BUTTER	柚木麻子
中東近現代の150年	関眞興	ゲーテはすべてを言った	鈴木結生
松岡正剛の国語力	松岡正剛	手順通りに操作するだけ！Excel 基本&時短ワザ	国本 温子
謎の香りはパン屋から	土屋 うさぎ	携帯遺産	鈴木結生
教師の「やりがい」とは何か	手島純	町の本屋はいかにしてつぶれてきたか	飯田一史
目指せ! 科学者 4	藤嶋 昭	ここが知りたい 地球温暖化	国立環境研究所
社会は「私」をどうかたちづくるのか	牧野智和	絶対に「謝らない人」	榎本博明
哲学で考える10の言葉―知を深めて力にする	岡本 裕一郎	ドロシーマンション	カヒジ/GAHEEZY
生きる言葉	俵 万智	日本語からの祝福、日本語への祝福	李琴峰
曇りなく常に良く	井戸川射子	コンピュータ、どうやってつくったんですか？	川添愛
まぐさ桶の犬	若竹七海	いじめられている君へ いじめている君へ いじめを見ている君へ	朝日新聞社
新井紀子の読解力トレーニング	新井紀子	新訂版 図解 国会の楽しい見方	時事通信社政治部
京都 ものがたりの道	彬子女王	著作権ハンドブック	宮武久佳・大塚大
絶望名言	頭木 弘樹/NHK “ラジオ深夜便” 制作班	本なら売るほど	児島 青
ヘタレ人類学者、沙漠をゆく	小西公大	虚の伽藍	月村了衛
ラジオの、光と闇	高橋源一郎	東大理三の悪魔	幸村百理男
その可能性はすでに考えた	井上真偽		